

「木の繊維」

苫小牧に断熱材工場

北海道産の間伐材活用

【札幌】断熱材の輸入販売などを手掛ける木の繊維(札幌市、大友昭雄社長)は北海道産の間伐材などを活用した住宅用断熱材の製造工場を二〇〇九年春までに苫小牧市に建設する。ドイツの製造技術を導入し、建材にしろくしい木材を有効利用する。

敷地面積は約二・五ヘクタ。工場棟は鉄骨平屋建てで約六千平方メートル。このほど

着工した。来年四月から試験操業を始め、同十月からの製品の市場出荷を目標している。

ドイツの断熱材メーカー、ホームテイルム社と製造技術などのライセンス契約を結んだ。苫小牧や十勝地方の間伐材などをチップ化して木質繊維に

加工し、板状の断熱材とする。年間チップ使用量は一万二千トンの予定で、一部は断熱材の加工に必要な燃料にも使う。

国内の建材メーカーなど七社が、約四千六百棟分を買い取る計画という。

回復するという従来の期待は持ちだてなくなっている」と述べた。

一―六月の累計の受注総額は前年同期比〇・四%増の七千八百十九億円。内需は同四・八%減の三千四百六十六億円、外需は同四・九%増の四千三百五十二億円だった。三年連続で過去最高を更新するのは微妙な情勢になりつつある。